

全国アマモサミットの歴史

History of National Amamo Summit

東京湾の生態系の再生をめざして
Tokai Bay International Workshop for the Regeneration of the Tokyo Bay Ecosystem

2005.11.25(金)～27(日)

参加費無料
(日本語同時通訳付)

2005年 全国アマモサミットのきっかけとなった国際ワークショップ

2005年の11月、これからの日本の沿岸生態系の保全や再生のあり方を問う、横浜国際ワークショップ「東京湾の生態系の再生をめざして よみがえるかアマモ?」横浜から発信する「トゥキョウベイプラン」が開催されました。アマモ場の再生のために、統合的な沿岸域管理が必要で、多様な関係者の協働が不可欠であることを学んだ私たちは、日本での沿岸域生態系の保全・再生を促進するための方策を模索し始めることとなりました。数年かけて議論を進め、2008年から年に1回、情報の共有、各地での保全・再生事業の推進、より多くの関係者とのネットワークの構築を目指して、「全国アマモサミット」を開催することとなりました。その後、コロナ禍の影響により2020年の中断(1年間)があったものの、2023年10月の福岡大会まで15回のサミットが開催されました。この第15回をもって「全国アマモサミット」は区切りをつけることとなりました。そして、2023年11月に国際アマモ・ブルーカーボンワークショップを東京で開催し、この18年におよぶ足跡を振り返り、今、私たちがなすべきことを宣言としてまとめました。

全国アマモサミットから出された宣言の概要

とし	ばしょ	ないうち
2008	横浜	「みんなの力でアマモ場を再生し、子供たちに残そう豊かな海」 「みんなで、まちおこし、多くの仲間、共通の目標、子どもたち」
2015	熊本	「八代海・有明海を豊かな海に再生するための」持続可能な取組の実現 ・興味、連携、場の設置、順応的、防災との両立、実現のための配慮
2016	備前	「備前湾」里海・里山プラン」の確立 ・若者の育成、文化を継承、人のつながり(よまー、オセ)
2017	伊勢志摩	「旅来に輝け!!とこわか海」 ・機会、出会い、学校、漁業、研究者、行政、皆で考え連携
2018	阪南	「5つのヒント、50,000の家産」 ・豊かきやまの「守り隊」、大人と子ども、食べる文化、研究者と行政
2019	みやぎ	「やまっつや アマモの語りつ 豊かな海を守るちや」 ・大切な伝え、未来へ繋げる、子どもたち、若者、生き物、機会の提供
2021	あおもり	「高めよう 陸奥湾の魅力」 ・次世代への継承、魅力の発信、新たな取組
2022	たてやま	「豊かな自然環境を未来へ—南房総・鏡山から世界へ—」 ・世界に向けた情報発信、全国から学び、地域で行動、一人一人ができること

2008年 第1回目の全国アマモサミット開催趣旨

いまだ数年にわたり、アマモ場の再生活動についてわれわれなりに学んできたのですが、このような集まりを繰り返していく中で、日本全国でアマモ場の再生活動が行われていることを認識しました。いまだ、私たちはアマモ場再生の重要性とその活動の内容とを横浜の地から発信してきましたが、このような課題・問題点の集約は、少なくとも日本国内においては、横浜だけ行うべきではなく、日本国内のいろいろな地域で情報交換の機会を持ち、それぞれの地域から、それぞれの地域の事情に合わせた活動内容を発信していただくが大変重要であることを確信するに到りました。このようなことから、2006年には「アマモサミットプレワークショップ」を開催し、日本各地で進められている沿岸域の自然再生・保全活動の様相について情報交換をしました。今年はこの準備期間に引き続いて、第一回の全国アマモサミットを横浜で開催させていただきます。(中略)

アマモ場の再生をキーワードとした沿岸域の自然再生が全国のいろいろな地域で行われていることが、今回のアマモサミットで浮き彫りになると思いますが、同時に、それぞれの活動が極めて地域性に富んだものであることも明らかになることと思います。(中略) それぞれの地域での行動・活動がどのように進めいくのが良いかというのを考えるのに大変参考になると思います。また、一つの地域内の小学生、社会人、年金生活者等の異なる世代がそれぞれの特性を發揮できるようにする方策は何か、という課題もあります。このことから、今回の集まりの主題を「地域連携・世代連携を探る」と言うことにしました。アマモサミットの開催は、その資金的な裏付けが極めて厳しいものなのですが、運営に携わる皆さんのボランティア精神で何とか実施することができます。また、全国にお声を掛け集まっていたいただいた方々には、主催者側から何らの経済的支援もできていないのが現状です。大変恐縮に感じておりますし、同時に感謝しております。今回の集まりの中で、皆さんの中で活発な意見交換・情報交換が進められることを期待しています。

全国アマモサミット2008 実行委員会 委員長 林しん治

全国アマモサミット2008
海辺の自然再生に向けた地域連携・世代連携を探る

12月5日(土)～7日(月)

2009-2023年 各地で開催された全国アマモサミット

全国アマモサミット2009 (11月6日)

全国アマモサミット2010 (11月20日)

全国アマモサミット2011 (11月20日)

全国アマモサミット2013 in みやぎ (11月9日)

全国アマモサミット2014 in おももり (9月27日)

八代海・有明海の再生をめざして (2015.10.21日+10.4日)

全国アマモサミット2015 in 備前 (6月8日-6月5日)

全国アマモサミット2017 in 伊勢志摩 (11月2日-3日)

全国アマモサミット2018 in 阪南 (11月2日-3日)

全国アマモサミット2019 in みやぎ (11月9日-10日)

全国アマモサミット2021 in あおもり (1月8日-9日)

全国アマモサミット2022 in たてやま (10月20日-21日+22日)

全国アマモサミット2023 in 福岡 (10月20日-21日+22日)

2023年 再び国際ワークショップ

2023年11月17-19日、東京にて、再び国際ワークショップが開催されました。今回は「国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ (Amamo2023)」と題し、今までの全国アマモサミットの総括とともに、今後5年から10年の間に喫緊に取り組むべきことが議論され、Amamo2023宣言としてとりまとめられました。

Amamo2023宣言

2023年11月17-19日、アマモを含む、ブルーカーボン生態系の保全・再生のために活動する多様な関係者が、国内・国外から東京に集り情報交換を行いました。その中で、ブルーカーボン生態系の保全・再生のための方針や方針、具体的な活動の情報交換がなされるとともに、今後の社会変革に向けた取り組みが議論されました。

その結果として、我々の地球環境・海洋環境は地球温暖化による気候変動と、自然生態系の変化の影響による生物多様性の損失の危機にあり、今、行動を起こすことが必要です。我々は、以下のような行動の指針に基づき、自分たちできる最善を尽くして行動していくことを宣言します。

対地方方針 気候変動と生物多様性の損失のどちらにもバランスよく対応することが必要です。そのためには、1) 科学的調査・知識をベースに、多面的な取り組みを行うことにより、ブルーカーボン生態系をフル・自然資本 (Blue Natural Capital) と捉え、2) 自然に基盤とした対応 (Nature Based Solution) やブルーカーボンクレジットやマーケットを創出する行動を、3) プール・エコノミーの発展を目指すことを取り進めます。

配慮事項 ① 科学的調査と連携を進めることが必要です。その際には、1) SDGsやパリ協定、国連・セントラル・オセアニア、ラムサール条約に示される気候変動や生物多様性の損失の削減目標 (Global) と自然や行動目標と地域 (Local) の両立を推進し、2) 科学的調査と連携を進め、3) 科学的調査と連携を進め、4) コミュニティの利益を優先し、5) 透明で説明責任の果たせるプロセスを持ち、6) 短期的な目標ではなく、世代を超えた将来への投資という長期的な視点を持つ必要があります。

必要要素 そうした取り組みを進める際に必要要素があります。それは、1) 科学的調査に基づく啓発、教育を行うこと、2) 家系し、新しい取り組みに挑戦すること、3) 透明性高く、信頼を築くこと、4) 各種データを広く深遠・分析・評価することを含め、科学的調査を継続・深化すること、5) 最新の知見を反映すること (例えば、気候変動の最新知見)、6) 関係者と協働・対話、7) 関係者と協働・対話 (Co-design, co-manage) を重視すること、8) 経済的資源を担保するために、自然資本・クレジットなどを通じて、企業などの民間セクターとの関係を加速させること、9) 国際的な連携をもっと取り組むこと、10) より良い成果につながることを目指すことです。

我々は、今回のAmamo2023を通して、アマモを含む、ブルーカーボン生態系の保全・再生について、課題解決と意思形成の重要性を認識しました。具体的には、漁業者の発展、継続の力、持続的な市民の協働、行政によるガバナンス、企業とのコミットメント、小学生の熱意、高校生の探求心、実業家への広がり、若い世代の力強いサポートを期待し、互いに学びあう機会、情報共有の重要性を再認識しました。

今、我々自身が将来に向けて、上記に示した方針・配慮事項・必要要素を共通のビジョンとして行動を起こす必要があります。我々が活動するだけでなく、幅広い関係者の参加・働きかけを通して、有効な社会連携ネットワークを構築し、環境的動的システムの理解を進め、環境の評価を行いながら協力的に社会変革のための行動を起こします。

Amamo2023参加者一同

2023年11月17日(金)18日(土)19日(日)
November 17th, 18th, 19th, 2023
都立川崎国際会議場 国際会議室
International Conference Hall,
The Sasakiwa Peace Foundation

国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ
International Eelgrass and Blue Carbon Workshop
Amamo2023
with J-COAST

主催: 国際アマモ・ブルーカーボンワークショップ実行委員会 (海辺つくり研究会、金沢八景一帯東洋アマモ場保全協議会、共存のネットワーク、ジャパンブルー・エコノミー・研究所、セブン・イレブン・ジャパン、財団法人 野川川海防局、財団法人 野川川海防局政策研究所)
Sponsors: International Eelgrass and Blue Carbon Workshop Organizing Committee (Association for Shore Environment, Curation, Amamo Rivival Collaboration in Kanazawa-Hakkei, Tokyo Bay Area, Network for Coexistence with Nature, Japan Blue Economy Association, Seven Eleven Foundation, Ocean Policy Research Institute of the Sasakiwa Peace Foundation)

ご協賛
企業・団体
Sponsorship
Companies
Organizations

全国アマモサミット2023 in 福岡宣言

私たちは、人の営みと自然環境の調和を真剣に考え、持続的に恵みを受けることのできる「ふくおかの海」に思いを馳せて、それぞれの大切な役割を尊重し、ともに行動します。

福岡・博多のまちには、大連との玄関口として物流・人流の両面で日本と世界各國を結ぶ拠点として重要な役割を担っており、博多湾の豊かな恵みを受けて発展してきました。一方で環境汚染、漁業資源の減少、海底環境の悪化などの課題を抱えており、これらの課題解決に向けて多くの取り組みが行われています。

「全国アマモサミット2023 in 福岡」では、「福岡の海に開くすべての関係者が福岡の海づくりの新たなスタートラインに立つこと」をテーマに、様々な立場の人が集まりました。大会を作り上げていく過程や大会中の議論を通して、私たちが皆「より良い博多湾」を求めており、SDGsの次のステップである包括的な豊かさの指標である「新富強指標」をみずけて、「ふくおかの海」から得られる自然の価値を示す「自然資本」を高めることに努め、未来のより良い博多湾の実現に必要なことがあることを再認識しました。本大会を通して私たちは、ともに活動していく価値を築き、これらの新しい指標の向上のために新たなスタートラインに立っています。

本大会の成果として、ふくおかの海から生まれた繋がりをともに、すべての関係者が豊かに幸せになるための「ウェルビーイング」向上のために、多様な人々とともに行動します。

全国アマモサミット2023 in 福岡 実行委員会
全国アマモサミット2023 in 福岡 参加者一同